

関西医科大学専門学校 理学療法学科 2023年度 前期 講義要領

| 科目名 | 科目区分 | 対象学年 | 講義形式 | 授業時数 | 単位数 | | |
|--|--|------|---|------|-----|--|--|
| 総合臨床実習 | 臨床実習 | Ⅱ部4年 | 実習 | 675 | 15 | | |
| 講義概要 | | | | | | | |
| 臨床実習指導者の下で多くの臨床経験を重ねることで、実践的な理学療法技術や思考過程ならびに理学療法士としてのソーシャルスキルを習得する機会とする。これをもって「基本的理学療法技術をある程度の助言・指導の下に行える」段階を目指す。 | | | | | | | |
| 講義目標 | | | | | | | |
| 【一般目標】 | 積極的な診療参加を通して、新人理学療法士に必要な基本的理学療法技術を経験する。 理学療法評価に基づき、対象患者の情報を整理して臨床実習指導者とディスカッションできる。 理学療法学生として患者や関連職種と適切にかかわることができること。 | | | | | | |
| 【行動目標】 | 実習前後のOSCEで自己の臨床能力を客観視する。 実習前認知領域テストで自己の知識量を客観視する。 学内実習で模擬症例に対する治療の想起、学生同士での練習を実践する。 実習指導者・患者に対する医療現場での適切な礼節を実践する。 通所リハ・訪問リハの現場に参加し、地域医療における理学療法の役割を経験する。 評価表に基づいて多くの臨床技術(評価・治療)を経験する。 臨床実習では多種多様な疾患・障害に対する臨床技術を経験する。 実習課題を毎日作成し、臨床実習指導者に指導を仰ぐためのツールとする。 症例情報を整理することで、経験症例に対する理解到達度を確認する。 | | | | | | |
| | | 時期 | 内容 | | | | |
| 実習前ゼミ 実習前OSCE 認知領域テスト | 4月3日～4月14日 | | 実習前オリエンテーション 実習前OSCE、実習前認知領域テスト | | | | |
| I期 | 4月17日～5月13日 | | 総合臨床実習または学内実習 | | | | |
| II期 | 5月15日～6月10日 | | 総合臨床実習または学内実習 | | | | |
| III期 | 6月12日～7月8日 | | 総合臨床実習または学内実習 | | | | |
| IV期 | 7月10日～8月5日 | | 総合臨床実習または学内実習または夏季休暇 | | | | |
| V期 | 8月7日～9月2日 | | 総合臨床実習または学内実習または夏季休暇 | | | | |
| VI期 | 9月4日～9月30日 | | 総合臨床実習または夏季休暇 | | | | |
| 実習後ゼミ 実習後OSCE | 8月中旬：IV期で臨床実習が終了するもの 9月上旬：V期で臨床実習が終了するもの 10月上旬：VI期で臨床実習が終了するもの | | 課題の提出、実習の振り返り、実習後OSCE | | | | |
| 指定教科書 | | | 参考図書 | | | | |
| 2023年度臨床実習指導要項(学生用) | | | なし | | | | |
| 評定方法 | | | 準備物・注意事項 | | | | |
| 実習に関わるゼミの状況、関連書類の提出状況、実習前後のOSCE結果、実習前認知領域テストの結果、実習先での臨床技能の経験値と指導者による評価、教員への定期連絡状況などを全て加味して総合的に評定する。 なお学内実習においても指導要項に記載したルールを採用する。 | | | 実習前後のゼミ、臨床実習には必ず2023年度臨床実習指導要項と実習ファイルを携行すること。 実習前OSCEの結果、実習前認知領域テストの結果、実習評価表の履歴は実習ファイルへ綴じ、配属実習施設への通達事項とする。 実習前後のゼミでは身だしなみチェックを行う。ゼミの身だしなみ不備、忘れ物、態度不良、遅刻・欠席等は全て当該科目からの減点対象事項となる。またゼミの段階で実習を中断・中止する場合がある。 実習中止の場合は、修了時間数を問わず単位取得不可となる。 | | | | |